

搬送技術で「物流」省・無人化

STer

最前線

各種コンベヤー、物流・省力化機器の設計・製作を手がけるマキテック（大野裕幸社長）は、生産現場や物流倉庫向けの搬送システム構築を強みとする。培ってきた搬送技術を生かし、物流分野の省人化・無人化に対応するロボットシステムの提案を推進している。

主力のコンベヤーは自動車、食品、医薬品など幅広い業界に供給。ロールボックスパレット（カゴ車）など周辺機器もそろえ、搬送機器分野で業界トップクラスのシェアを持つ。足元では搬送工程の中にロボットを組み込んだシステムの提案に力を入れる。大野社長は「得意の搬送技術を生かして差別化する」とロボット開発の方向性を示す。

自社開発の自律移動ロボット（AMR）「Robot-Vシリーズ」は、独自の制御ソフトウェア

により自己位置の推定が可能で、移動の目印となる磁気テープの敷設も不要。人や障害物を回避しながら移動し、停止位置精度は±1cmを実現している。

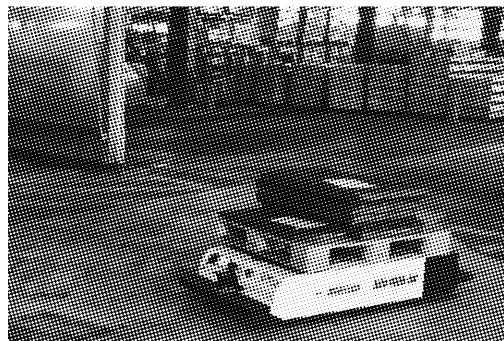
積載時に重量500kg以上になることもあるというカゴ車の搬送など活用の幅を広げている。ニーズに応じてラインアップを拡充し、現在は同5トン仕様を開発中。

本格投入から2年目に入り、大手数社に採用が決まるなど手応えをつかんでいる。

物流現場を熟知した知見を反映したソフト、各種機器は競争力の源泉になっている。AMRの制御ソフト以外でも、パレタイジングロボットに搭載する3次元（3D）認識システムを開発した。

開発拠点は2016年に開設したロボット工場（三重県四日市市）。ティーチング部隊など約20人がロボット開発、導入支援に当たり、社内のロボット人材育成の役割も担う。

停止位置精度±1cmを実現した「Robot-Vシリーズ」



顧客の要望にきめ細かく対応するため、全国に営業拠点を配置しており、「ロボットでも地域密着を基本とする」（大野社長）スタンスだ。今後は関東、東北、九州などにロボット部隊を配置する考えで、事業展開を支えるロボット人材の育成に力を入れていく。

【企業概要】

▷所在地—名古屋市中区熱田区旗屋1の9の21▷資本金—7912万1000円▷売上高—235億円（22年3月期）▷従業員—1187人▷設立—1974年（昭49）5月